

総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同
WFEO 分科会（第 24 期・第 3 回）議事録

1. 日時 令和 2 年 3 月 9 日（月）15:00～16:35
2. 場所 日本学術会議 6 階 6-A(1)会議室
3. 出席者 小松利光、高木真人、戸田圭一、為近恵美、塚原健一、中村道治、山本佳世子
(敬称略)
4. 配布資料
 - 資料 1 前回（第 2 回）議事録案
 - 資料 2 WEC2019 代表派遣会議出席報告
 - 資料 3 WFEO2020-2021 役員一覧
 - 資料 4 WFEO 2019 年総会における役員選挙結果
 - 資料 5 WFEO 総会、WEC2019 参加報告
 - 資料 6 日本工学会主催第 1 回世界エンジニアリングデー記念シンポジウムのお知らせ
5. 議題
 - (1)前回（第 2 回）議事録案の承認
 - ・塚原委員長から前回議事録案が紹介され、出席者（高木真人委員）の追加とスペルミスの修正が行われることとなった。
 - (2)2019 年 11 月開催 WFEO 年次総会報告及び今後の活動方針
 - ・塚原委員長より WFEO 年次総会について主に以下の点が報告された。
 - ・ 2020 年の WFEO 会合は、10 月 26-30 日間にルワンダのキルガリで開催予定である。
 - ・ WFEO の 2020-2021 年間の役員構成が資料 3 のように決定した。
 - ・ 10 の常設技術委員会のうち、Education in Engineering、Engineering Capacity Building ではホスト国が未定である。
 - ・ 発展途上国のプレゼンスが高まっており、執行部、常設技術委員会委員長の中心がアフリカ、中東に移っている。
 - ・ 2019 年総会での選挙でアメリカとイギリスが National Member 理事の議席を喪失した。
 - ・ 高木委員より WFEO 年次総会について日本工学会の資料を基に主に以下の点が報告された。
 - ・ 塚原委員長、高木委員がこれまでの WFEO への貢献に対してメダルを授与された。
 - ・ WFEO の活動が発展途上国にシフトしている。

- ・日本では、エンジニアの定義の曖昧さや、エンジニアの地位に課題がある。
 - ・WFEO の活動は、従来の Private Sector（産業界）からの支援のみならず、政策と連動した Public Sector（公的資金）での活動も検討する必要がある。
- ・高木委員より当初計画の日本工学会主催第 1 回世界エンジニアリングデー記念シンポジウムの開催が中止されたことと、世界エンジニアリングデーの意義を述べた Gong Ke 会長からのメッセージが報告された。
- ・小松委員より、WFEO について以下の意見が述べられた。
 - ・ National Member 理事の選挙について、議席確保のための事前の活動が相当なされたことが推測できる。
 - ・今後どのように WFEO 活動の中でイニシアティブを取っていくかが重要である。
- ・各委員による意見交換が行われた。
- ・(塚原委員長) WFEO に関連したイベントを開催するだけではなく、日本独自の活動をさらに活発化させる必要がある。
 - ・(高木委員) 世界エンジニアリングデーは、正式には UNESCO の記念日であり、エンジニアの地位向上や認知は、日本工学会が進めていかなければならない。経団連が提唱しているジョブ型雇用が増えれば、中長期的には活動を活性化できる可能性が高い。
 - ・(中村委員) 中国の一带一路政策は、ハードだけではなくソフトでの戦略になっている。アフリカに日本が積極的に入り込み、場合によって中国との連携を行うことも必要である。WFEO において日本が防災以外の分野でも貢献していることを見せるべきである。日本の学術コミュニティとしてどうすべきか検討する必要がある。
 - ・(小松委員) WFEO への派遣には日本では旅費の手当てがないので、参加者を増やすことが難しい。発展途上国では学会と政府が結びついて、活動資金を獲得している。
 - ・(高木委員) 日本は先進国であるが、例えば政策として進めている国際標準化活動などは、他の先進国が民間資金で行っている活動に国費を使っている。WFEO の活動も政策と連動させる努力が必要である。
 - ・(為近副委員長) 日物、応物学会における Women in Physics への派遣の例もあり、学会の資金で、各種国際委員会に委員を派遣できる可能性もあるのではないかと思う。
 - ・(山本幹事) 多くの学会では会員数減少などにより財政状況が厳しくなっているので、学会からの資金支出は難しいのではないかと。Women in Sniggering には委員として参加しているが、委員間で友好的な関係を構築している。他国ではアカデミア以外のエンジニアも参加し、大きな行事などを様々な主体間の連携により開催していることが報告されている。
 - ・(戸田委員) 日本では研究者が勤務先、学会等に力を分散しており、WFEO だけに集中することが難しいため、戦略的に WFEO に関与する必要がある。WFEO の中心メンバーになる

ためには、交渉力なども含む高度な英語力が必要である。

- ・(小松委員) WFEO は研究者だけの集まりではないことを認識したうえで、参加することが必要である。
- ・(高木委員) WFEO は、転職が多い海外のエンジニアにとっては自身の業績をアピールできる良い場であるが、終身雇用が一般的な日本のエンジニアにとってはメリットが少ない。しかしジョブ型雇用が広まれば変わっていくだろう。現状の日本は、雇用環境という点ではガラパゴス化している。
- ・(塚原委員長) WFEO はアカデミックな国際会議ではないので、ここでの発表は大学ではあまり高く評価されない。
- ・(高木委員) 企業でも、最近では、計画的な社員教育がなされているか怪しい。
- ・(中村委員) 中長期的な人材育成、資金獲得方法の検討が必要である。
- ・(小松委員) WFEO の災害リスク管理委員会では建設コンサルタント会社からのサポートがあり活動することができた。先進国ほど政府の資金支援がない。
- ・(山本幹事) 参加費用は自己負担、WFEO での活動や発表は大学ではあまり高く評価されないという理由で、若手の勧誘が困難である。
- ・(高木委員) 大学の教員のミッションとして WFEO のような活動が定義されていないのであれば評価が低いのはやむをえないが、逆に、このような活動もすべきであると考えるのであれば、学術会議の使命である Science for Policy として文部科学省などへの提言が必要である。
- ・(塚原委員長) 次期分科会では提言を出すにあたり、経済産業省、文部科学省等からエンジニアの役割についての諮問を受けることが重要である。
- ・(高木委員) 土木・建築分野のように、CPD 制度が業務に直結していると獲得が奨励される。

(3) その他

- ・為近副委員長より、昨年 10 月の総合工学委員会において、WFEO 分科会の報告を行ったことが紹介された。

(以上)